

第5章 セットプレー虎の穴「1. コーナーキックの守り方」

この章では、相手のセットプレーに対する守備方法を考察していきます。コーナーキックとフリーキックが中心となります。最後に、週末にワンデー大会に出場する皆さんを特に意識して、PK阻止率を向上するためのノウハウも提供していきます。

では、コーナーキックから始めましょう。

フットサルにおけるコーナーキックは、サッカーのそれに比べると失点の可能性は低いと言えます。これはゴールの大きさ、ハイボール（高さ）という概念が少ないからに他なりません。逆に、ゴレイロから見て失点をしてはいけないのがコーナーキックと言えます。

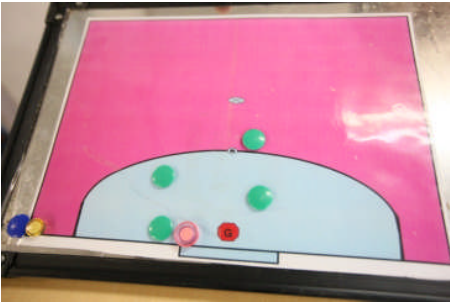
ここでは、大きくFPとゴレイロのポジショニングを紹介しましょう。どちらも「ゾーン内のマンツーマンディフェンス」を想定しています。

【其の1】FPのポジショニング

(1) 相手がゴール前での「中当て」を狙ってくるパターン

ビギナーチームに多いパターンです。ミドルを叩き込める強烈なシューターを持っていない場合、DFの間を通して、ゴール前でダイレクトにあわせるのが得点パターンとなります。これに対応するのが以下の写真①で、ボールサイドに2名、そしてゴール前に2名のDFを配置する守り方になります。ゴールエリア内を厚くしていますので、ミドルシュートへの対応は弱くなります。

写真①（前のDF 2人は間を抜かれないように特に注意する。）



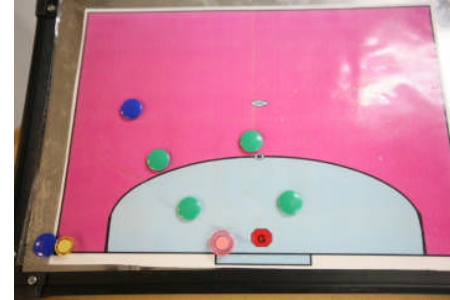
(2) 相手がミドルシュートを狙ってくるパターン

競技系やミドルシューターを持つチームへの対応パターンです。ポイントは左45度のプレーヤーの位置を高く配置し、ミドルシュートを打たれる可能性を低くできることです。この延長で縦に3人を配列するパターンもあります。しかしその場合、ゴール前は1名で手薄になり、浮玉を入れられたりサイン

～守護神はチームの主軸にして攻撃の起点
日本初の本格的ビギナー向けGKクリニック～
ゴレプロ ～Goleiro Professional Clinic～

プレーでブロックをかけられた時に弱くなります。(1)を選択するか(2)を選択するかはチームの方針で明確に決めておく必要があります。

写真②（左45度のミドルシュートへの意識を強くした場合。その代わりに、前のDF 2人の間を抜かれる可能性が高くなる。）



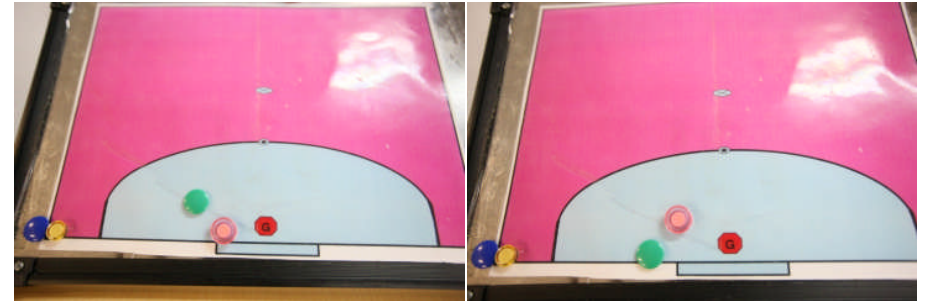
【其の2】ゴレイロのポジショニング

(1) ニアサイドを守る

(2) ニアサイドは壁に守らせて、DFの間のボールへ対応

写真①（ニアを空けさせてライン際に立つ）

写真②（ニアに壁を立てて自分は前に出る）



これはどちらが良いという類のものではなく、ゴレイロとしてどちらが守りやすいかの視点で決めて大丈夫です。

これは其の1の壁の作り方とあわせて選択して下さい。(1)はゴレイロがゴールを守る意識が強く、(2)はゴール前でのダイレクトプレーに対応する意識が強い守り方になります。どちらにしても、DFとの連携が必ず必要になりますので、チームとしてコーナーキックの守り方として決めておく必要があります。またDFの足の折り方ですが、写真①では「左足」を折って立ち、写真②ではライン上に立ち「右足」を折ると良いでしょう。

～守護神はチームの主軸にして攻撃の起点
日本初の本格的ビギナー向けGKクリニック～
ゴレプロ ～Goleiro Professional Clinic～